ディベート7「尿路結石の再発予防」

—司会の言葉—

郡　　健二郎
名古屋市立大学大学院医学研究科

「尿路結石の再発予防をテーマにしてディベートを」と学会長から依頼されたが，論点をいかにすべきか悩んだ．再発予防の是非や功罪をディベートしてもその戦いの結果は戦う前から決まっているからである．「再発予防などしなくても良い」と大手を振って唱えられる人はいない．しかし医療の現実はどうか？再発予防に真剣に取り組んでいる泌尿器科医は少なくなっている．それどころか最近では ESWL 治療をしていない大病院も出始めた．

結石治療がこのようになってしまった理由は，ESWL が低侵襲治療としてすっかり定着したことにある．その結果からか「再発してもいずれ破砕してもらいます」という患者さえ出はじめた．医療者側からすれば，再発予防にかかる手間と時間の割には診療報酬の点数が低いことも，再発予防を遠ざける一因になっている．これらは率直な意見で，行政が考えるべき問題である．年々多忙になっている泌尿器科医には，再発予防をする余裕をなくしているのだ．

このような医療背景を鑑みディベートのテーマを2つ選んだ．「尿路結石の再発予防は必要である」と「経過観察は内科医にまかせるべきである」である．ディベーターの3名は専門領域が異なる尿路結石の専門家である．特に中島先生は内科医にしては珍しく尿路結石に造詣が深い．ご多忙の中，ご参加いただいて，ディベートを活気づけていただいた．深謝している．3名はいずれも論客ぞろいだったから有意義なディベートを楽しんでいただけたものと思う．そして本来中立であるべき司会者（レフェリー）の本音である「再発予防は大切である」ことをくみ取って頂ければ，ディベートは成功したものと思う．

(Received on May 13, 2005
Accepted on May 26, 2005)